

◆ 歴史的分野の重点項目とその系統



| 章 | 人権確立の歴史, 民主政治の来歴 | 地域の歴史 | 人々の生活, 社会・経済 | 日本の多様な伝統・文化 | 世界との関わり, 平和 | 人物の紹介 |
|--------------------|---|--|---|--|--|--|
| 第2章 原始・古代の日本と世界 | 古代ギリシャの民主政と奴隷制 (p.26) 古代ローマの共和政と帝政 (p.27) 貧富の差と身分の区別の発生 (p.33) 律令国家の成立 (p.43) 律令制での良民と賤民 (p.44～45) 藤原氏の摂関政治 (p.48～49) 坂上田村麻呂と阿弖流為の戦い (p.53) | 三内丸山遺跡 [青森県] (p.36) 上野原遺跡 [鹿児島県] (p.37) 志段味古墳群 [愛知県] (p.36～37) 木簡が語る人々の暮らし [奈良県] (p.52) 坂上田村麻呂と阿弖流為の戦い [岩手県など] (p.53) | 縄文時代の暮らし (p.30～31) 弥生時代の暮らし (p.32～33) 律令制のもとでの暮らし (p.44～45) | 縄文文化と弥生文化 (p.30～33) 飛鳥文化 (p.41) 天平文化 (p.46～47) 国風文化 (p.50～51) 神話にみる古代の人々の信仰 (p.54～55) 最澄と空海, 菅原道真 (p.50) | メソポタミア文明・エジプト文明・インダス文明・中国文明, ギリシャ・ローマ (p.22～27) 宗教のおこりと文明 (p.28～29) 遣隋使 (p.40～41) 遣唐使 (p.46) | 聖徳太子 (p.40) 鑑真 (p.46) 行基 (p.47) 藤原道長 (p.49) 長屋王の暮らし (p.52) 坂上田村麻呂, 阿弖流為 (p.53) |
| 第3章 中世の日本と世界 | 院政から武家政権へ (p.64～67) 地頭を訴える農民 (p.69) 蝦夷地とアイヌ民族 (p.80～81) 正長の土一揆と, その碑文 (p.84) 庭園づくりに活躍した人々 (p.87) 中世の女性や子どもの地位 (p.88～89) | 奥州藤原氏と平泉 [岩手県] (p.63) 琉球王国の成立 [沖縄県] (p.80) オホーツク文化と擦文文化 [北海道] (p.81) 円覚寺 [神奈川県] (p.90), 聖福寺 [福岡県] (p.91), 毛越寺と無量光院跡 [岩手県] (p.91) | 武士の暮らし (p.68) 民衆と農業・商業 (p.69) 町の自治 (p.82～83) 村の自治 (p.83) 民衆に広まる文化 (p.87) 働く女性や子どもたち (p.88～89) | 鎌倉文化 (p.70) 新しい仏教 (p.70～71) オホーツク文化と擦文文化 (p.81) 室町文化 (p.86～87) 法然, 親鸞, 一遍, 日蓮, 栄西, 道元 (p.71) 足利義政, 雪舟 (p.86～87) | 日宋貿易 (p.65) 大陸をまたぐモンゴル帝国 (p.72～73) 一つになるユーラシア世界 (p.73) 海から押し寄せる元軍 (p.74～75) 勘合貿易 (p.79) | 平清盛 (p.64), 源頼朝 (p.65) 後鳥羽上皇, 北条政子 (p.67) チンギス=ハン, フビライ=ハン (p.72) 後醍醐天皇, 足利尊氏 (p.75), 足利義満 (p.77) 今川義元, 上杉謙信, 島津貴久, 武田信玄 (p.85) |
| 第4章 近世の日本と世界 | ヨーロッパ諸国の世界進出, 植民地 (p.102～103) 兵農分離 (p.110～111) 島原・天草一揆 (p.119) シャクシャインの蜂起 (p.123) 武士と百姓・町人 (p.124) 身分による差別 (p.125) 百姓一揆と打ちこわし (p.133) 大塩平八郎の乱 (p.137) | 銀で結びつく世界, 石見銀山 [島根県] (p.106) 江戸時代の国際関係 [長崎県・鹿児島県・沖縄県・北海道] (p.120～123) [紅花街道] [秋田県・山形県, 箱根関所] [神奈川県], 大井川の渡し [静岡県], 伊勢神宮への参詣 [三重県], 新潟の湊 [新潟県], 本間家の屋敷 [山形県] (p.128～129) 野國總管と青木昆陽 [沖縄県・千葉県] (p.133) リサイクル都市・江戸の町人 [東京都] (p.140～141) | 宣教師が見た日本 (p.107) 禁教と貿易の制限 (p.118～119) 村・町に住む人々の暮らし (p.124～125) 経済の発達と都市の繁栄 (p.126～127) 元禄文化と暮らしの変化 (p.130～131) 貨幣経済の広まり (p.132～133) 変動する社会と民衆の闘い (p.136～137) 地方の文化と教育 (p.139) リサイクル都市・江戸の町人 (p.140～141) | キリスト教の伝来 (p.104～105) 南蛮文化と桃山文化 (p.112～113) 琉球の文化 (p.122), アイヌ民族の文化 (p.123) 元禄文化 (p.130～131) 伊能忠敬と伊能図 (p.138) 学問の広まりと化政文化 (p.138～139) 千利休 (p.113) 松尾芭蕉 (p.130) | 教会と『コーラン』の教え (p.98～99) ルネサンスと宗教改革 (p.100～101) ヨーロッパ人の大航海 (p.102～103) 鉄砲とキリスト教の伝来 (p.104～105) 南蛮貿易 (p.105) 銀で結びつく世界 (p.106) 秀吉の外交と朝鮮侵略 (p.111) 朱印船貿易と日本町 (p.118) 江戸時代の国際関係 (p.120～121) 外国船の接近 (p.136) | コロンブス, バスコ=ダ=ガマ, マゼラン (p.103) フランシスコ=ザビエル (p.105) 天正遣欧使節 (p.107) 織田信長 (p.108), 豊臣秀吉 (p.109) 徳川家康 (p.114) シャクシャイン (p.123) 徳川吉宗 (p.132), 二宮尊徳 (p.133), 野國總管, 青木昆陽 (p.133), 田沼意次, 松平定信 (p.134～135), 間宮林蔵, 大塩平八郎, 水野忠邦 (p.136～137) |
| 第5章 日本の近代化と国際社会 | イギリスの名誉革命 (p.148～149) アメリカ合衆国の独立 (p.150) フランスの人権宣言 (p.151) ヨーロッパでの参政権の拡大 (p.153) 国民の権利と女性 (p.159) 世直しへの願い (p.164) 三閉伊一揆, 渋染一揆 (p.167) 身分制の廃止と, 残された差別 (p.169) 北海道の開拓とアイヌの人たち, 琉球処分と琉球の人たち (p.176～177, 184～185) 自由民権運動と政党の誕生 (p.178～179, 182～183) 大日本帝国憲法の発布と, 民法 (p.180～181) 社会問題の発生 (p.198～199) | ペリーの那覇・函館寄港 [沖縄県・北海道] (p.161) 開港後の横浜のにぎわい [神奈川県] (p.162) 坂本龍馬と横井小楠 [高知県・熊本県] (p.166) 三閉伊一揆, 渋染一揆 [岩手県・岡山県] (p.167) 富岡製糸場 [群馬県] (p.172) 北海道の開拓とアイヌの人たち [北海道] (p.176) 琉球処分と琉球の人たち [沖縄県] (p.177) 土族の反乱 [鹿児島県・熊本県など] (p.178～179) 植木枝盛と中江兆民 [高知県] (p.182) 多摩の自由民権運動, 津田梅子と女子英学塾 [東京都] (p.182～183) 琉球とアイヌの文化を伝えた人々 [沖縄県・北海道] (p.184～185) 足尾鉾毒事件 [栃木県] (p.199) | 開国の影響 (p.162) 社会不安と世直しへの願い (p.164) 富国強兵の諸改革 (p.170～171) 殖産興業と文明開化 (p.172～173) 民法と「家」の制度 (p.181) 戦争と国民生活 (p.192～193) 日本の産業革命 (p.196～197) 社会問題の発生 (p.198～199) | 殖産興業と文明開化 (p.172～173) 琉球とアイヌの文化を伝えた人々 (p.184～185) 明治時代の教育と文化 (p.200～201) 伊波普猷, 知里幸恵, 金田一京助 (p.184～185) 与謝野晶子 (p.192) 滝廉太郎, 夏目漱石, 野口英世, 樋口一葉, 正岡子規 (p.201) | イギリスの革命 (p.148～149) アメリカの独立革命とフランス革命 (p.150～151) イギリスの産業革命 (p.152) 近代化と列強の成立 (p.155) アジアの植民地化と抵抗 (p.156～157) ペリーの来航と開国 (p.160～161) 新しい国際関係の確立 (p.174～175) アジアに迫る列強 (p.186～187) 日清戦争と三国干渉 (p.188～189) 義和団事件と日英同盟 (p.190～191) 日露戦争とその影響 (p.192～193) 韓国併合と辛亥革命 (p.194～195) ハワイ・ブラジルへの移民 (p.203) | エリザベス1世, クロムウェル, ルイ14世, ロック, モンテスキュー, ルソー (p.148～149) ワシントン (p.150), ナポレオン (p.151) マルクス (p.153) リンカーン, ナイティンゲール (p.154～155) ペリー (p.160) 吉田松陰, 高杉晋作 (p.163) 明治天皇, 徳川慶喜, 西郷隆盛, 勝海舟 (p.164～165) 坂本龍馬, 横井小楠 (p.166) クラーク (p.172), 福沢諭吉 (p.173), 大久保利通 (p.175), 尚泰 (p.177), 板垣退助 (p.178), 伊藤博文 (p.180) 植木枝盛, 中江兆民, 津田梅子 (p.182～183) 八田與一 (p.189) 東郷平八郎 (p.192), 孫文 (p.195) 豊田佐吉 (p.197), 田中正造 (p.199) |
| 第6章 二度の世界大戦と日本 | アジアの民族運動 (p.218～219) 護憲運動, 民本主義 (p.220) 本格的政党内閣の成立 (p.221) 米騒動 (p.221) 社会運動の高まりと普通選挙 (p.222～223) 杉原千畝のビザ発行 (p.239) | 関東大震災 [東京都など] (p.225) 大正・昭和初期の面影を訪ねて [愛知県・兵庫県・東京都・熊本県・秋田県] (p.226～227) 関東大震災と後藤新平 [東京都など] (p.238) 戦場となった沖縄 [沖縄県] (p.246) 戦争の記憶をつなぐ人々 [沖縄県・岩手県・鹿児島県・広島県] (p.248～249) | 大戦景気 (p.212), 財閥と日本の経済発展 (p.213) 米騒動 (p.221), 社会運動の高まり (p.222) 都市の発展と大衆文化 (p.224～225) 経済の混乱 (p.230) 戦時体制と国民生活の統制 (p.236～237) 戦況の悪化と国民生活 (p.244～245) | 文化の大衆化 (p.224) 新しい学問と文学・芸術 (p.225) 大正・昭和初期の面影を訪ねて (p.226～227) 芥川龍之介, 小林多喜二 (p.225) | 第一次世界大戦と日本 (p.212～213) 国際協調と民主主義の広がり (p.216～217) 世界恐慌とファシズムの台頭 (p.228～229) 満州事変から国際連盟脱退へ (p.232～233) 軍国主義の高まりと日中戦争 (p.234～235) 太平洋戦争の始まり (p.242～243) 第二次世界大戦の終結 (p.246～247) 戦争の記憶をつなぐ人々 (p.248～249) | レーニン, ウィルソン (p.214～215) 新渡戸稲造 (p.217) ガンディー, 柳宗悦 (p.219) 吉野作造, 美濃部達吉, 原敬 (p.220～221) 平塚らいてう (p.223) フランクリン=ローズベルト, ヒトラー (p.228～229) 犬養毅, 石橋湛山 (p.233) 後藤新平, 杉原千畝 (p.238～239) アンネ=フランク, チャーチル (p.241) |
| 第7章 現代の日本と世界 | 民主化政策の始まり (p.256～257) 日本国憲法の公布と諸改革 (p.258～259) 原水爆禁止運動 (p.263) 公害の発生 (p.271) 平和を築くために (p.282～283) | 沖縄の本土復帰 [沖縄県] (p.267) 日本の領土をめぐる課題 [北海道・島根県・沖縄県] (p.268～269) 移り変わる戦後の街を訪ねて [神奈川県] (p.274～275) 広島で開催される平和記念式典 [広島県] (p.282) 災害の歴史を学ぶ・伝える [大阪府・岩手県・宮城県・熊本県] (p.290～291) | 戦後の国民生活 (p.257) 財閥解体と農地改革 (p.259) 豊かな国民生活と公害 (p.270～271) マスメディアの発達と戦後の文化 (p.272～273) バブル経済とその影響 (p.278) 21世紀の日本 (p.280～281) 平和と共生を願う人々 (p.284～285) | 国民生活の変化 (p.270) マスメディアの発達と戦後の文化 (p.272～273) インターネットの普及と文化 (p.281) 美空ひばり, 湯川秀樹, 手塚治虫 (p.272～273) 村上春樹, 宮崎駿 (p.281) | 連合国軍の日本占領 (p.256) 新しい中国と朝鮮戦争 (p.261) 独立の回復と国際社会への復帰 (p.262～263) 安保改定と国交正常化 (p.266～267) 冷戦終結後の世界 (p.276～277) アジアの成長と課題 (p.279) 世界の中の市民の一人として (p.282～283) | 昭和天皇, マッカーサー (p.256) 吉田茂 (p.262) 岸信介, 田中角栄, 毛沢東, 周恩来 (p.266) ブッシュ, ゴルバチョフ (p.276) |